

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11781

研究課題名（和文）英領植民地と民国僑務の越境性から読み解く20世紀カリブ海地域華僑華人史研究

研究課題名（英文）A Study of the Transnational History of the Chinese Caribbean in British Colonies and under the Chinese Nationalist Party's Policies in the Mid-Twentieth Century

研究代表者

園田 節子（Sonoda, Setsuko）

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：60367133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：トリニダード・トバゴ、イギリス、台湾で公機関と個人所蔵双方の史料を調査し、体系的に収集した。20世紀の英領西インド諸島華人について、抗日戦争期と1962年独立を重点的に分析し、人種関係における位置づけ、成長産業との関わり、英国とその海外植民地に跨る社会的上昇を実証した。加えて、世代や言語、高等教育を修めた場所などの要素を重視する民国僑務の様相を明らかにし、大英帝国と中華民国双方の諸要素を反映するネットワークのうえに現地華人のトランスナショナルな生があると論じた。研究成果は日英両言語で国内外の学会などで発表し、国内外の学術雑誌特集号ならびに諸媒体に日英両言語で複数の論文を掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在日本社会では事実上多民族化が進み、少子高齢化に伴う移民導入の議論もある中、移民関連研究の枠組みはいまだ大多数が特定の国家に収まるナショナルな枠組みに留まっている。移民が本来有するグローバルで越境的（トランスナショナル）な要素を理解し、より良い21世紀社会の在り方を考えるには、本研究のように歴史実証を通して、複数の国家や地域に跨るグローバリティと越境性、国の越境的行政反応などの具体的事例から知見を広げることである。成果は日英両言語で発信しており、トリニダードの公文書館とコスタリカの学術研究機関からの学術協力要請にも応じており、国際的にも学術的社会的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：To historically analyze the Chinese in the British West Indies in the twentieth century, I conducted archival research in Trinidad, Britain, and Taiwan and collected extensive historical materials from both public and private collections. This study discusses the history of the Chinese in Trinidad, focusing on their positionality in local racial relations, involvement in growing industries, and their upward social mobility straddling Britain and its overseas colonies. They were also linked with the ROC due to the work of an official of the Overseas Chinese Affairs Commission, who actively created a network among the local Chinese. Consequently, the lives of the Chinese in Trinidad had transnational characteristics. The results of this study were put online, presented in academic conferences domestically and internationally, and have been published in special issues of high-impact academic journals in Canada and Japan, as well as in commercial publications and books.

研究分野：中国近現代史、華僑華人研究、地域研究、移民研究

キーワード：トランスナショナリズム 英領植民地 中国国民党 僑務 トリニダード カリブ海地域 ディアスポラ 華人 社会的上昇

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

華僑華人はトランスナショナルな存在であるにも拘らず、国内外の関連研究は、いまだ大多数が各国家、各地域内部のエスニック・コミュニティ研究であり、ナショナルな見方が支配的である。この現状にあつて新機軸を提出するため、複数国家や地域に跨るグローバルな広がりをもつ、トランスナショナルな越境性を通して研究できるテーマが、カリブ海地域華僑華人史である。とりわけ英領植民地には、一国単位に収まらず複数の旧植民地や英国を圏域とする広大な地域関係が存在し、カリブ海地域の英領植民地がまさにそれに当たる。かつ 1930 年代から 70 年代まで、中華民国が同地域の華僑華人コミュニティに対して僑務と呼ばれる華僑政策を実施した。

しかしこのテーマは、日本では極めて限られた研究しかおこなわれていない。国外においても、英語でおこなわれるカリブ海地域華僑史は研究蓄積が進んでいるものの、英語史料のみ使用しており、現地に残る中国語史料や台湾にある僑務史料を用いていない。このため、中国が海外華僑を対象に国内政治を越境させるという独特の華僑華人政策の分析やそれを受けた華僑コミュニティの変容に着目した議論がない。現地でも中国語史料を調査・分析することで、日本の華僑研究のみならず、英語発信することで現地の華僑研究にも貢献できる学術状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、英領植民地のグローバルな歴史性を有する華僑華人史に着目し、カリブ海地域において、旧英領である西インド諸島諸国における華僑華人コミュニティの 20 世紀史を明らかにすることを目的としている。カリブ海地域の華僑華人コミュニティに反映される、カリブ海地域の地域関係、アメリカ、イギリス、カナダ、そして東南アジアの旧英領諸国とリンクする地域関係に目配りし、さらにこれに加えてこの地域まで及んだ中国国民党の華僑政策「僑務」からの影響とその関連を論ずべく、実証研究を進める。

研究対象とする時期は 1930 年代から 1970 年代とし、植民地エリートやディアスポラ華人、華商、中国国民党員といった多様な構成員から成るカリブ海地域華僑社会が内包する言語、世代、思想の重層性、旧英領植民地における、あるいは植民地間における華僑華人の経歴、社会上昇、再移民、政治、情報が連結する特徴的な越境性、そして同地域出身の華僑華人に今も作用する 20 世紀の歴史性を研究する。そして、長期・広域的視座からの華僑華人研究の新機軸とともに、「英領植民地」という括りからの研究の意義を提唱することを目指す。

3. 研究の方法

(1)カリブ海地域で華僑華人が最も古くかつ地域内で多くの中国系人口を有するのは、旧英領西インド諸島の主要 3 国トリニダード・トバゴ、ジャマイカ、ガイアナである。このうちトリニダードは現地史料の分量とアクセス面で最も優れ、かつ申請者が継続的に関係人脈を順調に開拓してきた地域である。トリニダード華僑華人を本研究の重点的な事例研究の対象とし、カリブ海地域と英国、台湾で現地史料調査をおこない、文献実証研究を進める。

(2)カナダ、オーストラリア、東南アジアの旧英領植民地における華僑華人の排除と包摂と比較できるように、1930～1970 年代のカリブ海地域の社会における華僑華人の排除/包摂に関して、周縁化やエスニック化の過程を明らかにする。このため、カリブ海地域現地の公文書館が保管する植民地政府官報や政府布告や、独立後の官報、英国の公文書館や大英図書館が所蔵する行政文書を調査分析し、そこから中国人入国法の変遷や社会統合の議論を整頓する。

(3)カリブ海地域で実施された中華民国の僑務の実態と特徴を明らかにすべく、国民党の僑務史料の実証分析を進める。台湾の中央研究院近代史研究所や国史館の史料のほか、華僑社会側に残る当時の出版物や、派遣された国民党僑務委員の個人文書も対象とする。カリブ海地域での僑務の特徴を特定するため、東南アジアの国民党僑務の先行研究を参照する。英国や現地政府が僑務や中国系住民をどう見ていたかにも目配りするため、英文文書も収集する。

(4)旧英領植民地の華僑コミュニティの間で、人脈やネットワークが繋がる越境性や共鳴、連結に目配りする。抗日戦争期と冷戦期に、英国、カナダ、東南アジアの英領植民地、アメリカといった地理的に離れた英語圏の華僑華人が、カリブ海地域の華僑華人の経歴や情報の面で連結してくる現象の具体的様相を明らかにする。そのため台湾や北米、ロンドンで史料を収集し、英領植民地間でのヒトと情報のトランスナショナリズムを論じることを目指す。

(5)カリブ海地域華僑をイギリスと中国双方からその位置づけを考察する目的で、中華民国外務部長として外交分野で活躍したトリニダード華人陳友仁(1879-1944)の人物研究を進める。

(6) 英領植民地の制度的かつ文化社会的環境や中国の接近は現地華僑に何をもちたらし、いかなるトランスナショナリズムとコミュニティの構造を生み出したか。20世紀の中国系住民と国家・制度の関係性が21世紀も作用する歴史性を論じるために、中国系西インド諸島人にトリニダード現地と再移民先イギリスでインタビューを実施する。

4. 研究成果

(1) 本研究における国外で実施した史料調査収集では、英領西インド諸島の華僑華人に関連する史料を、体系的に調査収集することができた。

2018年8月にトリニダード・トバゴ首都ポートオブスペインで3週間おこなった現地調査では、トリニダード・トバゴ共和国国立公文書館所蔵の史料を調査し、同館には現地華僑が発行した華字新聞のコレクションがあり、先行研究で全くの未使用であることが分かり、これを収集した。また滞在中同館キュレーターの協力依頼を受けて、華字新聞全体に目を通し簡単な解題を作成して同館に寄贈した。さらに現地では中国系住民の家族史インタビューと、現地の中国系住民やヨーロッパ系研究者の個人所蔵コレクションのなかの史料調査をおこなった。この結果、個人所蔵史料には、1930~40年代の私信、国民党の英語雑誌全冊、イヤープック、公務員名簿、大学卒業アルバム、写真等があると分かり、アフリカ系とインド系住民が多数を占める現地の人種構成の中でどのように中国系が社会的上昇を実現するか、その経歴や教育戦略を論じられるとの史料の性格を把握した。

2019年は、8月に英国オックスフォード大学とロンドンの大英図書館ならびに国立公文書館にて2週間、トリニダード、ジャマイカ、英領ガイアナの産業と中国系家族に関する植民地行政史料、農業・エネルギー資源の歴史地図を収集し、社会経済史的側面の議論を強化した。

2022年9月にロンドンで3週間、国立公文書館で植民地省文書原本を調査し、かつ同館内端末からのみ無料で調査収集できるAdam Matthew Digital Libraryから関連史料を集めた。この調査で、トリニダードでは19世紀に中国人対象の賭博問題と関連禁止法、1930年代に中国系業者の進出産業になった酒類販売業と石油事業の官報や植民地政府文書、華僑の意見書などが出され、中国系の具体的な社会的上昇の回路や程度、特にアフリカ系が構成する現地の下層民衆社会と連結する事業形態を議論することが可能になった。

2023年2月に10日間おこなった台北の中央研究院近代史研究所档案館での外交部档案調査では、ラテンアメリカ地域全体への民国僑務の方針などを調査し、グローバルな僑務の中での英領西インド諸島の位置を明らかにできた。

(2) 収集した史料の分析を通して得られた新しい議論を含めた論考を執筆し、国内で商業出版と学術出版両方の形態で活字化した。

2019年には、グローバル・ヒストリーの枠組みから人の移動を論じる世界史叢書の一冊に、近現代の華僑華人史を南北アメリカに重点を置きつつグローバルに捉えて整頓した一編を寄稿し、このなかでカリブ海地域の華人の社会的上昇のパターンが提供する視座の新しさを指摘した(園田 2019)。

国内の華僑華人史研究とラテンアメリカ研究双方の関連研究者がアクセスできる媒体として、2021年の上智大学イベロアメリカ研究所『イベロアメリカ研究』のアジア・ラテンアメリカ地域間関係特集号に、20世紀前半トリニダード華人の社会的上昇の実証研究論文を掲載した。当該論文では、19世紀後半以降、トリニダード現地の人種関係のなかで中国人労働人が置かれた位置づけ、さらに特徴的な華僑個人の社会的上昇を押さえながら、1930~60年代の間、特に抗日戦争期と1962年トリニダード・トバゴ共和国成立前後に焦点をあて、広東系華人の商業的成功者と現地派遣された南京国民政府僑務委員会とのあいだに構築された協力関係の存在に言及し、その協力関係が現地華人の社会的上昇に新たな経路をもたらしたと論じた。(園田 2021)

(3) 本研究の成果は、英語圏の華僑華人研究の領域に英語で発信し、かつ関連する史料の解題と紹介を英語で発表してこそ、国外で意義を持つ。このため、成果を英語論文として執筆し、発信した。

ハイ・インパクト・ジャーナルである国際学術雑誌Canadian Journal of Historyで「辺境のグローバル・ヒストリー」概念を用いた華僑華人史研究の特集Transnational Chinese Passages and the Global Making of Frontiers and Borderlandsが企画され、寄稿依頼を受けた。この特集に、中華民国の華僑政策の展開がカリブ海地域に及ぶプロセスが、同時期に進行したトリニダードの中国系住民が社会的に上昇していく過程とどのように交差したかを20世紀幅で論じた実証論文を執筆し、出版した(Sonoda 2019)。

同論文はジャーナル本体に加え、ブログそして2020年1月22日付けFacebook記事で紹介された(<https://myemail.constantcontact.com/Browse-the-new-issue-of-the-Canadian-Journal-of-History-.html?soid=1102678839183&aid=01ABqqGezqM&fbclid=IwAR0Y67uqALL04g1Dfyio0hcdiWklpr632h0WntW0-pF4DXHQiFNrhUvsc6o>) ;

<https://www.facebook.com/CJH.ACH/photos/a.853663954650513/3237677329582485/>)

またトリニダード・トバゴ共和国国立公文書館が、2021年10月15日付け Facebook 記事で、同館所蔵の現地華字新聞史料コレクションの解題と合わせ、同論文をレファレンスとして紹介した (<https://m.facebook.com/nationalarchivestt/posts/4486151968144599/>)。これによって研究者のみならず、トリニダード現地の一般市民にも研究内容を還元できた。

(4) 上記の(2)(3)の日英両言語による活字化までに、国内外の学会や研究会で口頭発表をおこない、ラテンアメリカ研究や中国近代史研究の研究者のコメントや質疑を得て自身の議論の展開や方向性を定めた。この積極的な発信によって、下記の通り学術的議論の進展に貢献し、ラテンアメリカ各地の研究機関との学術協力関係を構築した。

2018年11月のマカオで開催されたアジア太平洋ラテンアメリカ研究国際会議(CELAO)と2019年2月の京都大学人文科学研究所研究会では、トリニダードの華僑が19世紀から1930年代までに辿った社会的上昇の回路、ならびに抗日戦争期に中国国民党がトリニダードの中国系社会で展開した僑務、さらにそれに華僑華人はいかなる協力をしたか報告した。これに先立ち2018年10月に招聘されたペルーのサンマルコス国立大学のグローバル・ヒストリー・セミナー講義でも、この議論の一部を反映して近現代の南北アメリカ華僑華人史を論じた。

2019年6月に国内の日本移民学会年次大会のラウンドテーブルを1枠主催し、移動を前提とした社会的上昇パターンについて論じた。11月には早稲田大学政経学部の経済史セミナーで、トリニダード華人の社会的上昇について社会経済学史方面に焦点を置いて報告した。同月、コスタリカ大学が企画した中国学と華僑研究のテーマ国際会議に参加し、トリニダードで展開した中国の僑務政策に対する報告をおこない、中南米の中国研究者たちの関心を得ることができた。この研究報告を契機に、コスタリカ大学の中国研究者と学术交流に発展する道が開けた。2021年1月から同大学の共同研究プロジェクト「コスタリカへの中国人の移住に関する歴史記憶の回復 Proyecto de Recuperación de la memoria histórica de las migraciones chinas a Costa Rica」共同研究員として台湾の民国史料を中心とした研究を進めることになり、国際的な研究協力体制を築いた。

新型コロナのパンデミック沈静化に伴い、2021年に国立民族学博物館共同研究班での口頭報告や、2022年に日本移民学会年次大会のラウンドテーブル、立命館大学人文科学研究所の研究会などで、海外華僑を外交資源としながら現地政府に働きかける中華民国政府の行政反応を歴史枠で論じた研究成果を口頭報告した。

(5) 陳友仁の人物研究に関しては、新型コロナの影響によって国外における関連史料の調査と収集が継続延長期間の5年目にやっと実現したため、研究期間中に口頭報告や活字化までには至らなかった。論文執筆はこれからの作業と位置付け、引き続き陳友仁人物研究を続行する。

(6) 当初予期していなかった事態として、本研究期間中に新型コロナのパンデミックに直面し、最終年度に予定していた国外調査と関係者インタビューに直接的な影響を被ったことを挙げる。

国外調査は、1年間継続延長申請をし、コロナがやや沈静化してから再開できた。沈静化しなかった場合を考えて、高額ながら中国で盛んに出版されるようになったシリーズ公刊史料を購入・使用したが、これも結果的に有効であった。

イギリスに再移民した中国系西インド諸島出身者を対象とする関係者インタビューは、オンラインで実施するとフォーマルインタビューの形式とならざるを得ず、このため、対象者がプレッシャーを感じて直前に実施不可能となった。コロナの水際対策が緩和して現地渡航が叶い、現地の確かな人脈を通じて対象者と面会インタビュー予約まで整えても、対象者がコロナに感染して実行不能となった。総じてコロナの期間中、調査者が面識のない調査対象者にインタビュー手法を採ることは困難を伴ったため、こうした事態では可能な限り歴史的調査に終始すべきであるとの知見を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 園田節子 | 4. 巻 83 |
| 2. 論文標題 20世紀前半英領西インド諸島の地域間関係における華僑華人 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 イペロアメリカ研究（特集 アジア・ラテンアメリカ関係の新展開） | 6. 最初と最後の頁 49-72 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Setsuko Sonoda | 4. 巻 54(3) |
| 2. 論文標題 Achieving Economic Success and Social Mobility: The Chinese Community in Trinidad, British Caribbean before 1949 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Canadian Journal of History/Annales canadiennes d'histoire | 6. 最初と最後の頁 315-344 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3138/cjh.ach.54.3.2019-0021 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 園田節子 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 第7章 近現代の華人の移動にみる制度・国家・越境性 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 永原陽子編『MINERVA 世界史叢書4 人々がつなぐ世界史』京都：ミネルヴァ書房 | 6. 最初と最後の頁 205-231 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 園田節子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 動向 華人社会：華僑・華人 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 中国研究所編『中国年鑑2018』東京：明石書店 | 6. 最初と最後の頁 94-96 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 中国のグローバルな「僑務」の歴史的検討 動機・体制・変容 |
| 3. 学会等名 日本移民学会年次大会ラウンドテーブルC「越境政治の国際比較：出移民と送出国家のトランスナショナリズム」、日本移民学会第 32 回 年次大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 討論：華僑華人史の視点から |
| 3. 学会等名 第43回日本ラテンアメリカ学会定期大会 パネルA「中国の台頭とラテンアメリカの政治社会」 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 越境政治（transnational politics）概念に関する先行研究の整理 |
| 3. 学会等名 立命館大学人文科学研究所助成プロジェクト「越境政治の国際比較」研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 「華工」の近代：グローバル資本主義、ディアスポラ、社会階層 |
| 3. 学会等名 民博共同研究「人類史における移動概念の再構築」研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 “言語圏・同盟国”再移動による政治的社会的上昇　ディアスポラ華人を通して |
| 3. 学会等名 日本移民学会年次大会ラウンドテーブルC「移動・政治・言語　移動者の記憶/経験と文化継承のスタイル」、2019年日本移民学会年次大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 英領植民地で中国系住民はいかに社会的上昇を図ったか：20世紀前半トリニダード事例分析 |
| 3. 学会等名 早稲田大学政治経済学部グローバル経済史研究部会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Setsuko Sonoda |
| 2. 発表標題 China's Overseas Chinese Affairs in the British West Indies in the 1930s and 40s: A Historical Analysis of the Chinese in Trinidad |
| 3. 学会等名 I Congreso Internacional Latino Americanista sobre Estudios Sinologicos: “Encuentros con el Mundo Chino,” Universidad de Costa Rica (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Setsuko Sonoda |
| 2. 発表標題 New Themes in Transpacific History: Interconnections between Chinese Transnational Institutions and Nation-States and Chinese Communities in the Americas in the Nineteenth Century |
| 3. 学会等名 International Seminar of Global History, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima, Peru (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Setsuko Sonoda |
| 2. 発表標題 Interconnections between Nation-States and Chinese in the Americas in the Twentieth Century |
| 3. 学会等名 International Seminar of Global History, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima, Peru (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Setsuko Sonoda |
| 2. 発表標題 Achieving Economic Success and Emerging as Allied Nationals: A Historical Study of the Chinese in British Caribbean |
| 3. 学会等名 The 8th Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y de Oceanía, University of Macao (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 園田節子 |
| 2. 発表標題 英領西インド諸島における中国移民の社会的地位向上：1930 - 40年代の分析を中心に |
| 3. 学会等名 「転換期中国における社会経済制度」共同研究（班長：村上衛）、京都大学人文科学研究所（京都府） |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 鹿毛敏夫（編著）、山内晋次、岡美穂子、李侑儒、万明、遠藤浩巳、大庭康時、續伸一郎、坪根伸也、広津留三紗、伊藤幸司、中島楽章、仲野義文、園田節子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 思文閣出版 | 5. 総ページ数 400 |
| 3. 書名 硫黄と銀の室町・戦国 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

コスタリカ大学「コスタリカへの中国人の移住に関する歴史記憶の回復」共同研究員
http://www.premehchi.ucr.ac.cr/es/investigadorespemechi?fbclid=IwAR0S4r2CDZEPow1AYIxgDxcl55RFI8d_nAaHbSgtXMoCtXK42H1t2E_U4ic
大分市「おおいた大友学オンラインセミナー『戦国大名と鉱物資源』」総合司会
<http://www.city.oita.oita.jp/o204/bunkasports/shitebunkazai/event/sinpohonpe.html>

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|